

## 定期報告（ウルグアイ内政・外交：2018年4月）

### 【内政】

#### 1 世論調査結果

3月～4月に実施された次期大統領選挙（2019年10月）に関する主要各社世論調査結果は次の通り。各社の結果にばらつきはあるものの、前回調査結果同様、与党FAと国民党が25%～35%前後で競り合う状況が続いている。

「今週の日曜日に（Cifra社は「今日」）選挙が実施されると想定した場合、どの政党に投票するか」との質問に対する結果は以下のとおり。

##### ● Factum社（調査期間：3月3日～3月23日）

FA：36%

国民党：30%

コロラド党：7%

独立党：6%

人々の党：6%

人民同盟2%

白票、分からない、上記以外の党：13%

##### ● Cifra社（調査期間：3月2日～3月15日）

与党FA：24%

国民党：25%

コロラド党：3%

独立党：5%

人々の党：2%

人民同盟1%

白票、分からない、上記以外の党：40%

##### ● Radar社（調査期間：4月3日～4月8日）

FA：33%

国民党：29%

コロラド党：6%

独立党：2%

人々の党：4%

白票、分からない、上記以外の党：25%

#### 2 ニン・ノボア外相のウルグアイ川浚渫工事現場視察

5日、ニン・ノボア外相は、ウルグアイとアルゼンチンの国境を成すウルグアイ川の管理委員会（CARU）発足40周年の枠組みでパイサンドゥ県を訪問し、ウルグアイ川浚渫工事現場を視察した。ウルグアイとアルゼンチンの共同出資で実施されている同インフラ整備により、パイサンドゥ港の水深が拡張され、17フィート規模の商業船等の就航が可能となる。また、同外相は、カラバジヨ・パイサンドゥ県知事と国境近隣地域開発に関する意見交換を行った。

#### 3 アルヒモン国民党新総裁の就任

16日、ベアトリス・アルヒモン国民党執行役員は、同党新総裁に就任し、党創設（1836年）以来初の女性総裁となった。同新総裁は、同党次期大統領選挙有力候補のラカジェ・ポウ上院議員が率いる派閥Todosに所属し、元下院議員及び青少年庁長官等を務めた経歴を持つ。

同新総裁は、現在汚職を追求されているガルシア・ピントス元共和国銀行総裁（国民党所属）に関し、党風紀委員会が調査を行い厳格に対処すると強調した（当館注：同元共和国銀行総裁は、国民党への献金目的で、総裁時に支給されていた公用クレジットカードを使用し計1万米ドル強を引き出していたことが発覚）。

#### 4 プエンテ中等教育委員長の辞任

16日、プエンテ中等教育委員長は、中央教育審議会（CODICEN）の要請に応じて辞任した。以前から、同委員長は指導方針の違い等により中央教育審議会及び教職員組合との軋轢が報じられていた。中央教育審議会は、初等教育委員会、中等教育委員会、職業訓練教育委員会、教師育成委員会で構成され、ウルグアイの公教育における事実上の権威として教育省よりも強い影響力を持つとされる。

#### 5 ボノミ内務大臣への議会質疑

18日、ボルダベリー上院議員（コロラド党）の発議により、治安悪化等に関するボノミ内務大臣への上院質疑が12時間に亘り行われた。同大臣は、同質疑が政治的意図による演出であると批判し辞任を否定。大統領及び与党も同大臣への支持を表明した。2018年第1四半期（1月～3月）の殺人件数は138件で、人口10万人当たり12.02人が殺害された計算となる（前年同期：8.1人）。なお、EU諸国の同平均は0.99人（2016年）。内務相の発表によれば、殺人138件の内80件（58%）が麻薬組織間の抗争による。

#### 6 ノーベル平和賞受賞者4名によるフォーラム開催

26日～28日、ソドレ国立劇場及び市立競輪場において「平和の選択」と題するフォーラムが行われ、ノーベル賞受賞者4名（アルゼンチンの人権活動家エスキベル氏、ヴァウエンサ・ポーランド元大統領、グアテマラの人権活動家メンチュウ女史、イランの人権弁護士エバーディー女史）が出席した。開会式でバスケス大統領は、「平和とは紛争の無い状態を指すのではなく、疎外や差別が無く、自由、独立、主権及び民主主義が尊重され、権利と責任のバランスが取れた社会を指す」と強調した。

### 【外交】

#### 1 ベルガミノ外務次官のモンゴル及びアラブ首長国連邦訪問

2日、ベルガミノ外務次官はウランバートルを訪問し、Battsetseg Batmunkh外務次官と会談し、査免協定に署名した。また、同次官はB. Batzorig食糧農業軽工業大臣及びN. Enkhbold防衛大臣と会談し、農業協力協定（2014年に署名済み）の実施に関する協議、また、両国が積極的な貢献を行うPKOに関する意見交換を行った。

4日、同外務次官はアブダビを訪問し、Ahmad Abdulrahman外務次官と会談し査免協定覚書に署名した。同外務次官は、両国が租税条約及び航空サービスに関する協定に署名済みであり、投資協定署名を6月に行うべく準備を行っているとした。

#### 2 主要野党代表によるフォークランド（マルビナス）諸島訪問

3日付当地エル・パイソ紙は、国民党、コロラド党、独立党の若手党員3名が在ウルグアイ英大使館の招待により、3月9日から1週間フォークランド（マルビナス）諸島を訪れ、同訪問を国民党の一部が非難した旨報じた。与党FAは、招待を受けたものの同訪問が不適切であると判断し辞退した旨明らかにした。

### 3 ルーラ元伯大統領逮捕に関するウルグアイの動向

5日、与党F Aは政治協議会を開催し全会一致でルーラ元伯大統領に対する支持を表明した（同元大統領は7日に収監された）。11日、複数のF A議員及び労組代表を含む数百名が在ウルグアイ伯大使館前に集いルーラ元大統領の釈放を訴えた。一方、野党は、伯の政情不安に対する懸念を表しつつ、伯司法の独立性及び汚職に対する厳格な姿勢を評価し、F Aによる同元大統領支持は汚職の支持に通じると批判した。

### 4 ザリーフ・イラン外相の来訪

11日、バスケス大統領は大統領公邸にて、ニン・ノボア外相同席のもとザリーフ・イラン外相の表敬を受けた。同日、外相会談が行われ、両国関係、地域及び国際情勢に関する意見交換が行われた。また、ザリーフ外相はトポランスキー副大統領兼上院議長及びガンディーニ下院議長と会談した他、両国政府及び企業関係者80名が参加したウルグアイ・イラン・ビジネス・フォーラムに出席した。2017年、ウルグアイの対イラン輸出はコメ、羊毛、バター、薬品を中心に1千万米ドルに達し、同国からの輸入は6.5百万米ドルであった。

### 5 ムニョス教育文化大臣の訪中

17日～20日、ムニョス教育文化大臣は中国を訪問し、Wang科学技術大臣と科学、技術、イノベーションに関する協力覚書に署名し、Luo文化観光大臣と協力協定（2016年に署名）を再確認する覚書に署名し、Jing孔子学院副理事長及びYu国際経済協力庁総局長と会談した。また、同大臣は、北京言語文化大学学長と大学間交流の深化に関する文書に署名した他、中国国立美術館で開催され、ウルグアイ・プレコロンビアン・アート美術館（MAP I）所蔵品150点以上が展示されたグアラニー（ウルグアイの先住民）特別展の開会式に出席した。

### 6 ミレッド国際対ガン連合（UICC）新会長兼ヨルダン王女の来訪

18日、バスケス大統領は、ニン・ノボア外相及びバツソ厚生大臣同席のもとウルグアイを訪問中のミレッド国際対ガン連合（UICC）新会長兼ヨルダン王女と会談した。また、同大統領は、モンテビデオ県庁で開催された持続可能なガン治療をテーマとするハイレベル・ラ米地域フォーラムに出席した。

### 7 バスケス大統領の第8回米州サミット出席

14日、バスケス大統領及びニン・ノボア外相は、ペルーで開催された第8回米州サミットに出席し、マージンで亜、伯、墨、コスタリカの4ヶ国と二国間首脳会談を行った。また、ニン・ノボア外相は、同サミットの枠組みで、米務省ラ米担当次官から米及び欧州諸国で実施されている一連のロシア外交官の国外追放措置への追従について打診を受け、それを即時拒否したと明らかにした。

### 8 EFTA諸国議員委員会代表の来訪

19日、ニン・ノボア外相は、ウルグアイを訪問中の欧州自由貿易連合（EFTA）諸国議員委員会代表の表敬を受け、進行中のメルコスール・EFTA・FTA交渉に関する意見交換及び共同記者会見を行った。双方は、公正、透明及び平等なルールに基づく貿易の重要性及び市民が享受しうる利益を強調した。第4回目となる次回交渉が7月2日～6日にスイスで予定されている。

### 9 UNASURからの6ヶ国離脱表明に対するウルグアイの反応

19日、亜、伯、チリ、コロンビア、ペルー及びパラグアイの6ヶ国が、南米諸国連合（UN

ASUR) 離脱を表明したことに対し、ニン・ノボア外相は、ウルグアイは離脱する意向はないと断言し、地域政策協議の場またそれ以上の役割を担う重要な機関であるUNASURの状況改善のために努力を惜しまない旨述べた。野党主要政党は政府の姿勢を批判しており、ラカジェ・ポウ上院議員は、国民党政権樹立が実現した暁にはUNASUR、南米銀行(BANCO DE L SUR)及びTELESUR等を離脱する意向であると述べた。

#### 10 ニン・ノボア外相のノルウェー、スウェーデン、ポルトガル訪問

26日、ニン・ノボア外相は、ノルウェーを訪問しエリクセン外相と会談し、両国の政治、経済・貿易、協力分野における関係強化を目的とする政策協議の発足に関する覚書に署名した。また、同外相は、オルセン中銀総裁兼公的投資基金運用理事会会長、エルヴェストゥーエン気候環境大臣及びイーサクセン貿易産業大臣と会談した他、ウルグアイでオキアミ漁及び加工を行うAker Biomarine本社を訪問した。

27日、同外相は、スウェーデンを訪問し、ヴァルストローム外相と会談し、ワーキングホリデー協定に署名した。また、両外務省政務総局長級が出席し、第3回ウルグアイ・スウェーデン政策協議を開催した。

30日、同外相は、ポルトガルを訪問し外相会談を行い、サントス外相を2019年にウルグアイに招待した。

#### 【要人往来】

##### ○往訪

- 2日、ベルガミノ外務次官のモンゴル訪問
- 4日、ベルガミノ外務次官のアラブ首長国連邦訪問
- 4日及び5日、メネンデス防衛大臣の訪露(第7回安全保障・防衛国際会議出席)
- 12日、トマ大統領府長官の訪伊(コンドル作戦に関する公判控訴審傍聴)
- 12日～14日、ニン・ノボア外相のペルー訪問(米州サミット出席)
- 14日、バスケス大統領のペルー訪問(米州サミット出席)
- 17日～20日、ムニョス教育文化大臣の訪中
- 22日～27日、ボノミ内務大臣の訪露(第9回治安担当大臣会合出席)
- 23日～30日、ニン・ノボア外相のノルウェー(23日～26日)、スウェーデン(27日)、ポルトガル訪問(30日)

##### ○来訪

- 11日、ザリーフ・イラン外相

(了)